

山陰合同銀行との勉強会

開催報告

日時 | 令和8年2月4日(水)
場所 | 浜田ワシントンホテルプラザ

TKC会員事務所からは、会員・職員あわせて15名が参加し、山陰合同銀行銀行からは、支店長2名をはじめ9名の参加がありました



決算書の見方を学び、MISによる信頼ある決算書を活用していきたい

山陰合同銀行浜田支店
支店長 坪倉 孝 様

講師：TKC中国会
中小企業支援委員長 竹内 宏規

決算書の見方についてをテーマに会計事務所が決算書で気になる科目5つと金融機関が気になる5つの科目の違いやTKCの決算書の信頼性がなぜ高いのかについて説明されました。TKCの決算書が高い信頼を得ている理由として、月次巡回監査により毎月帳簿を確認し、TKCシステムの徹底活用で税務と会計が一通貫で決算書まで作成される仕組みが、「粉飾の可能性が低い」「経営内容が透明」と評価され、金融機関からの信用向上にも寄与しているとのこと。同じ決算書でも見る立場によって評価ポイントが異なること、そして正しい会計が企業の信用力向上につながることを改めて学ぶ機会となりました。



当日はTKC FOCUSも視聴し、金融機関の課題を解決する糸口も確認いただきました

参加者の声



若手の決算書を見る力が低下している。今回の勉強会をきっかけに行内でも掘り下げていきたい。



決算書の見べきポイントがわかりました。銀行員と税理士で、視点が違うことがわかりました。



「決算書でどこを特に注目して見るか」という点がとても印象に残りました。今は業務で決算書を見る機会が多いため、今回の内容は大変参考になりました。